

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 1	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption patterns and HbA1c, C-peptide and insulin concentrations in men. 男性におけるアルコール摂取パターンと HbA1c, C ペプチド、インスリン値について	
執筆者	
Meyer KA, Conigrave KM, Chu NF, Rifai N, Spiegelman D, Stampfer MJ, Rimm EB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Am Coll Nutr. 2003; 22 (3): 185-94.	
キーワード	
飲酒パターン、インスリン感受性、インスリン、C ペプチド	
要 旨	
<p>目的: アルコール摂取パターンとインスリン感受性に及ぼす影響についてはまだ良く分かっていない。そこで、一日摂取量・頻度・食事との併摂取を含めた飲酒パターンと空腹時インスリン値・空腹時 C ペプチド・HbA1c との関連性について検討した。</p> <p>方法: Health Professionals' Follow-up Study から抽出された健康な男性 462 名を対象として、飲酒パターンについての断面研究を行った。研究参加者は 48 歳から 82 歳で、1994 年に血液試料を採取するとともに食餌・生活習慣・飲酒パターンについての問診を行った。この参加者の内、男性 267 名が空腹時血液試料を提供し、インスリンと C ペプチドの解析に参加した。</p> <p>結果: 生物学的指標と平均飲酒量の間にはあまり強い相関は認めなかった。統計的には有意差は認めなかったが、禁酒者に比べると一日のアルコール摂取量が 1 杯未満、1 杯以上 2 杯未満、2 杯以上 3 杯未満、3 杯以上の者では、インスリン値にそれぞれ 0.06, 1.25, 1.02, 0.12 μ U/ml の差が見られた。平均飲酒量とその他の潜在的交絡因子で調整すると、飲酒頻度と空腹時 C ペプチド・空腹時インスリン値の間には負の相関が見られた。飲酒日数が週に 1-3 日の者と比較すると、4-5 日/週、6-7 日/週の者では C ペプチド値はそれぞれ 0.08ng/ml, 0.29ng/ml 低いことが分かった(trend-p=0.04)。ほとんど毎日飲酒をする者では、そうでない者に比べて空腹時インスリンレベルは低かった(trend-p=0.05)。</p> <p>結論: 以上の結果から、飲酒頻度と空腹時 C ペプチド値および空腹時インスリン値との間には負の相関があることが示唆された。</p>	